

都心まちづくり計画策定協議会②

会議資料

平成 26 年 12 月 1 日

【0】おさらいと検討の視点

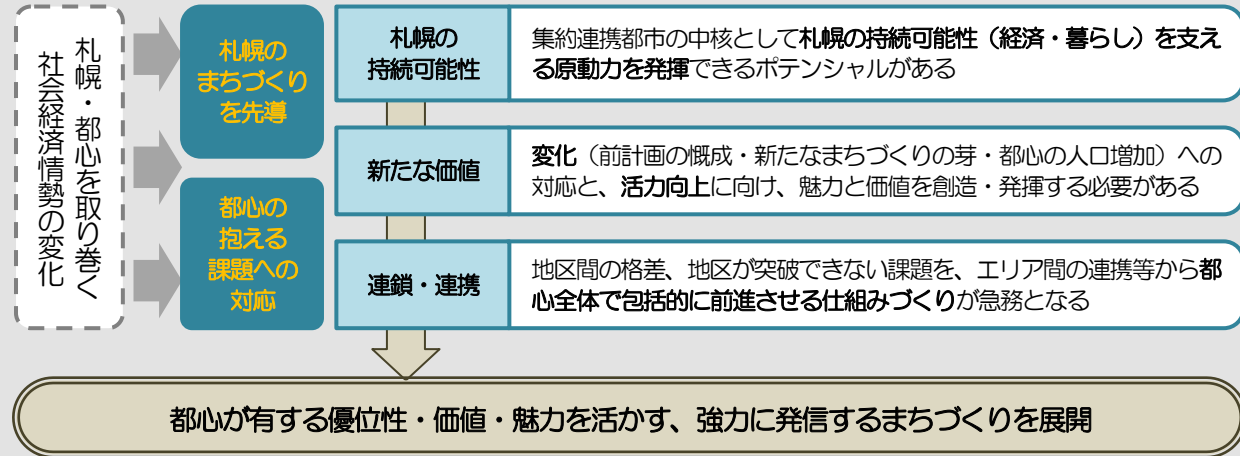
(1) 第1回会議における議論のポイント (※()内は委員名(敬称略))

札幌・都心の現況に係る視点	札幌・都心の優位性	○東京と地続きではない、災害が少ないことを背景としたバックアップ拠点としての地理的優位性(関根)	
	札幌・都心の可能性	○全国・全道の少子化を見据え、子育て環境としての優位性の発揮(関根) ○商工会議所では成長戦略を産業、人材、インフラ、安全・安心の4つの視点から検討している。都心まちづくり計画との連携を図りたい(池内) ○ニセコが再活性化したように、札幌にも見えない価値があるのでは(池内) ○気候、ライフスタイル、都市構造、1万の独自性を活かしたモデルの可能性(蓮見) ○ないものを取り込むのではなく、風土に合った特性をリットに換える知力が必要(蓮見)	
	札幌・都心の現状課題	○札幌の成長戦略が明確でない。(大鐘) ○冬季オリンピックに形成された市街地の代謝が進まない。(関根) ○バックアップ拠点に限って優位性を高めるには限界がある(管林) ○札幌は産業面での盛り上がり欠けるため、新規ビル建設、既存ビル更新等の民間投資が起こっていない。(管林) ○観光地としての知名度はあるが、MICEが起こらない。アフターコンベンションも含めた戦略が必要。(中鉢) ○街並みの分断を如何に解消するか(廣川)	
都心まちづくり計画の重点	続・都心まちづくり計画の力点	メッセージ性	○財源の減少を視野に入れた選択と集中、官民役割分担(関根) ○地域社会活性化と地域経済活性化の両方が重要。(大鐘) ○札幌発の起爆剤となる産業育成の視点も重要(管林) ○「経済の環境づくり」から更に一歩踏み込んだメッセージを発信できるかどうかポイント(白鳥) ○オール札幌での成長戦略と、都心の役割の明確化(保井) ○民を誘導するための官の姿勢・覚悟を示す必要がある。それを決断できるかがこの計画の重要な点となる。(村木)
		ターゲット	○都心で働く人達にとって働きやすい環境は何か(白鳥) ○海外の知恵の導入も重要。対アジアで見ると、福岡とは違った気候風土は札幌の魅力となる。(保井)
		仕組み(マシメト)	○PPPでまちを動かしていくことが重要(小林) ○バラバラな投資を抑え、一定の方向に誘導していくのがまちづくり会社の役割のひとつ(白鳥) ○官民の動きを整合させる方策を考えるのが次のマネジメントの目標(保井)
	都心のインフラ	交通	○四季に対応した都心のアクセシビリティの確保(高野) ○限られた歩道・車道の空間の中での移動手段としての自転車の位置づけ(高野)
		エネルギー	○エネルギーインフラも社会都市基盤として重視すべき(小林) ○エネルギーを考える上でも、まちのクオリティ、ストリートシーンを併せて考える必要がある(村木)
		情報	○観光インフラであると同時に、暮らしを支えるインフラとしての情報通信網は重要(関根)

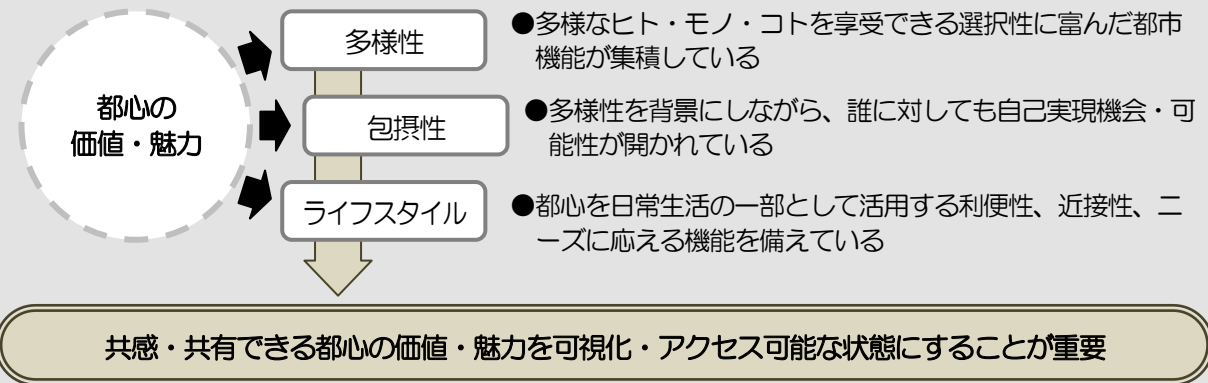
【1】VISIONING (都心まちづくりの成長戦略)

(1) 都心まちづくりにおける成長戦略立案の視点

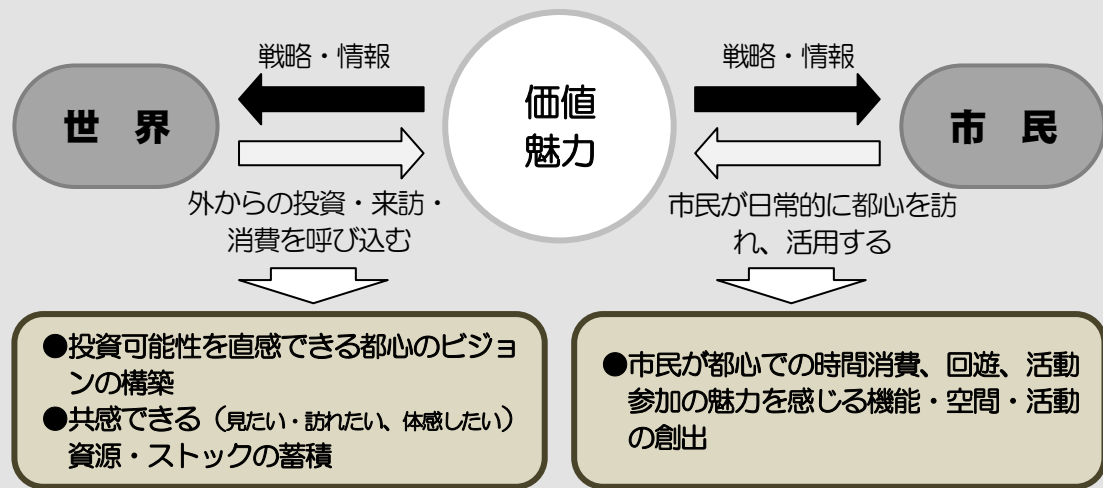
① 何故、都心のまちづくりか(おさらい)



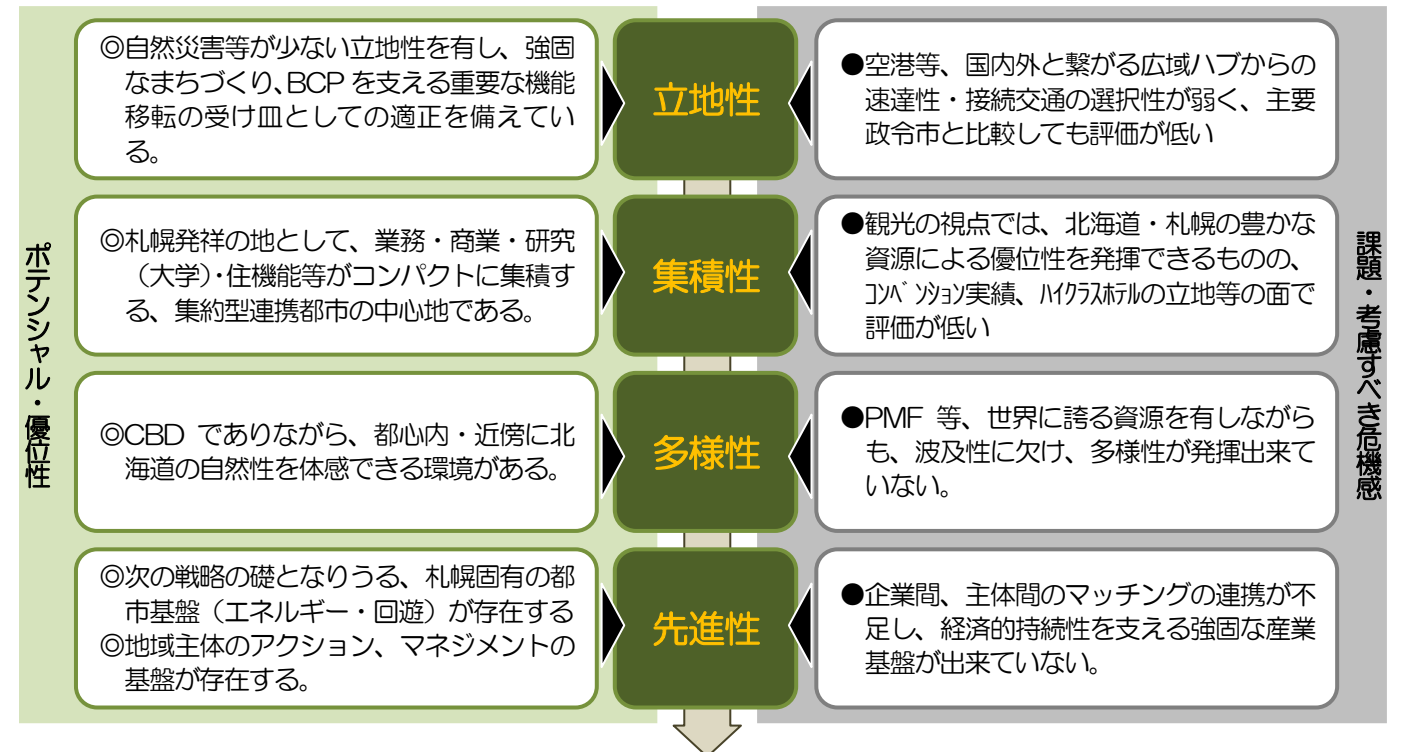
② 都心の有する(有するべき)優位性・価値・魅力を発揮・強化



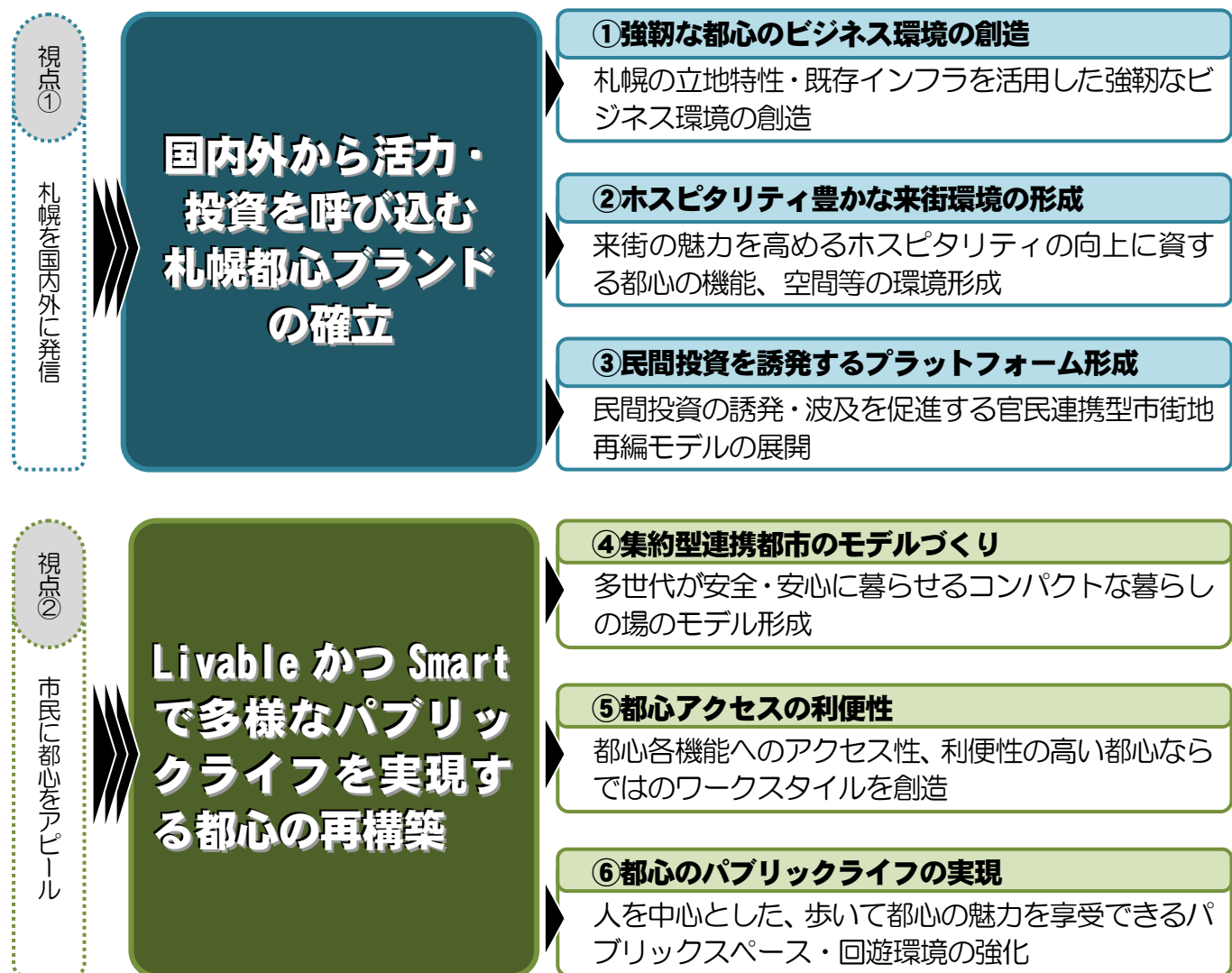
③ 都心の価値発信のベクトル; 目標立案の視点(狙い)



(2) 都心の有する価値・ポテンシャルとは



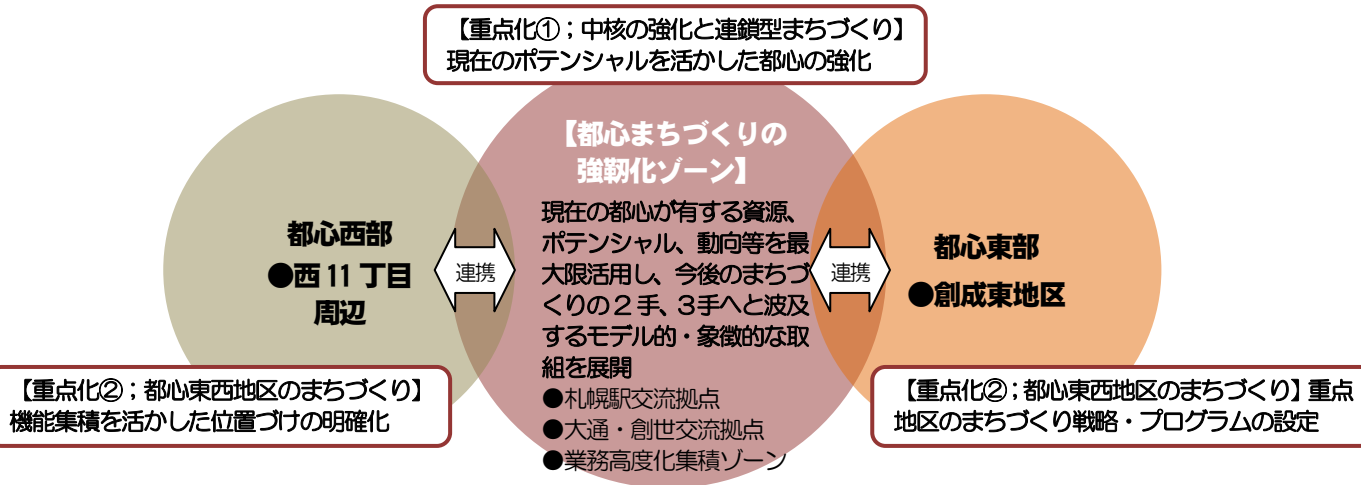
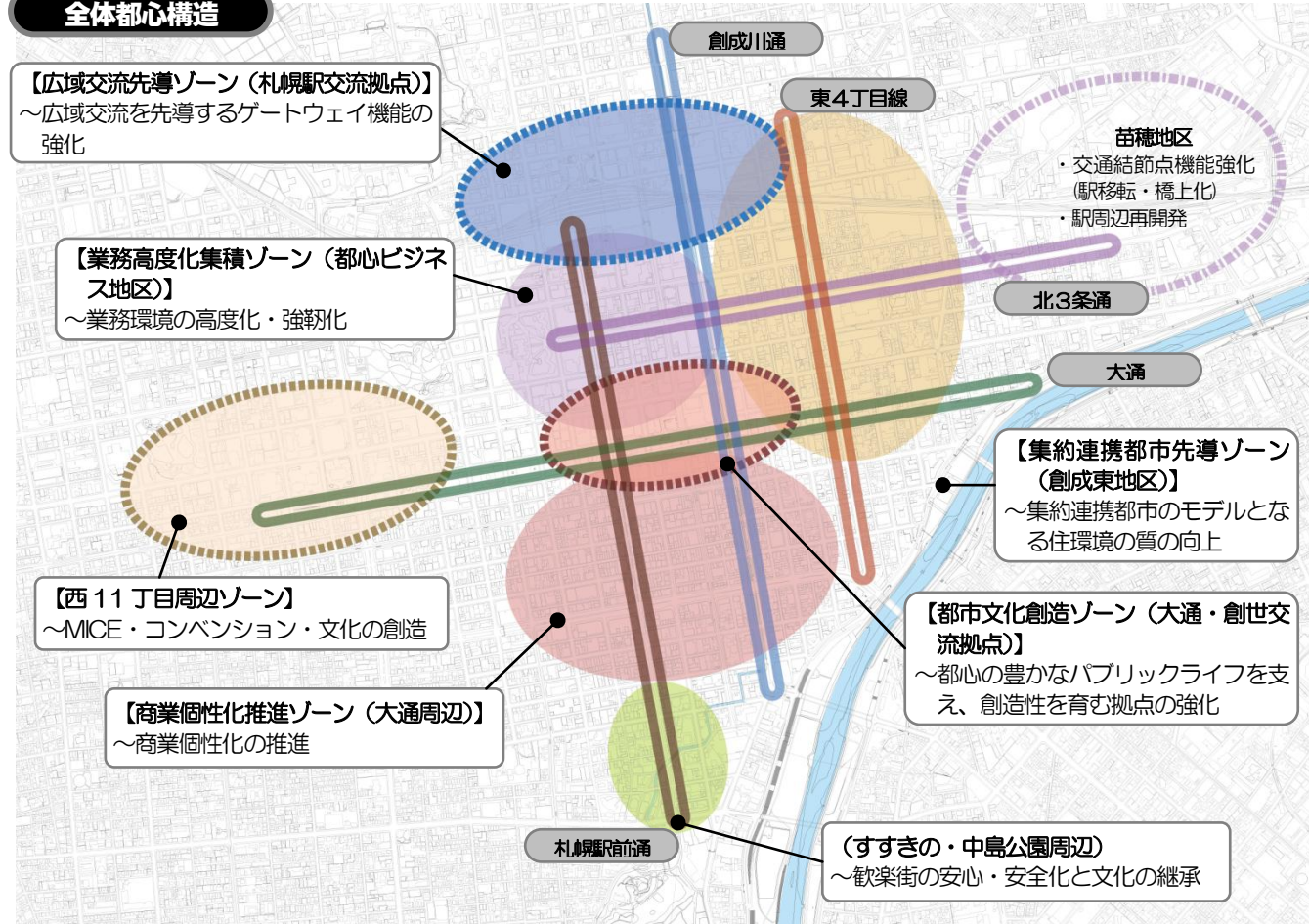
(3) 都心まちづくりの目標像と成長戦略



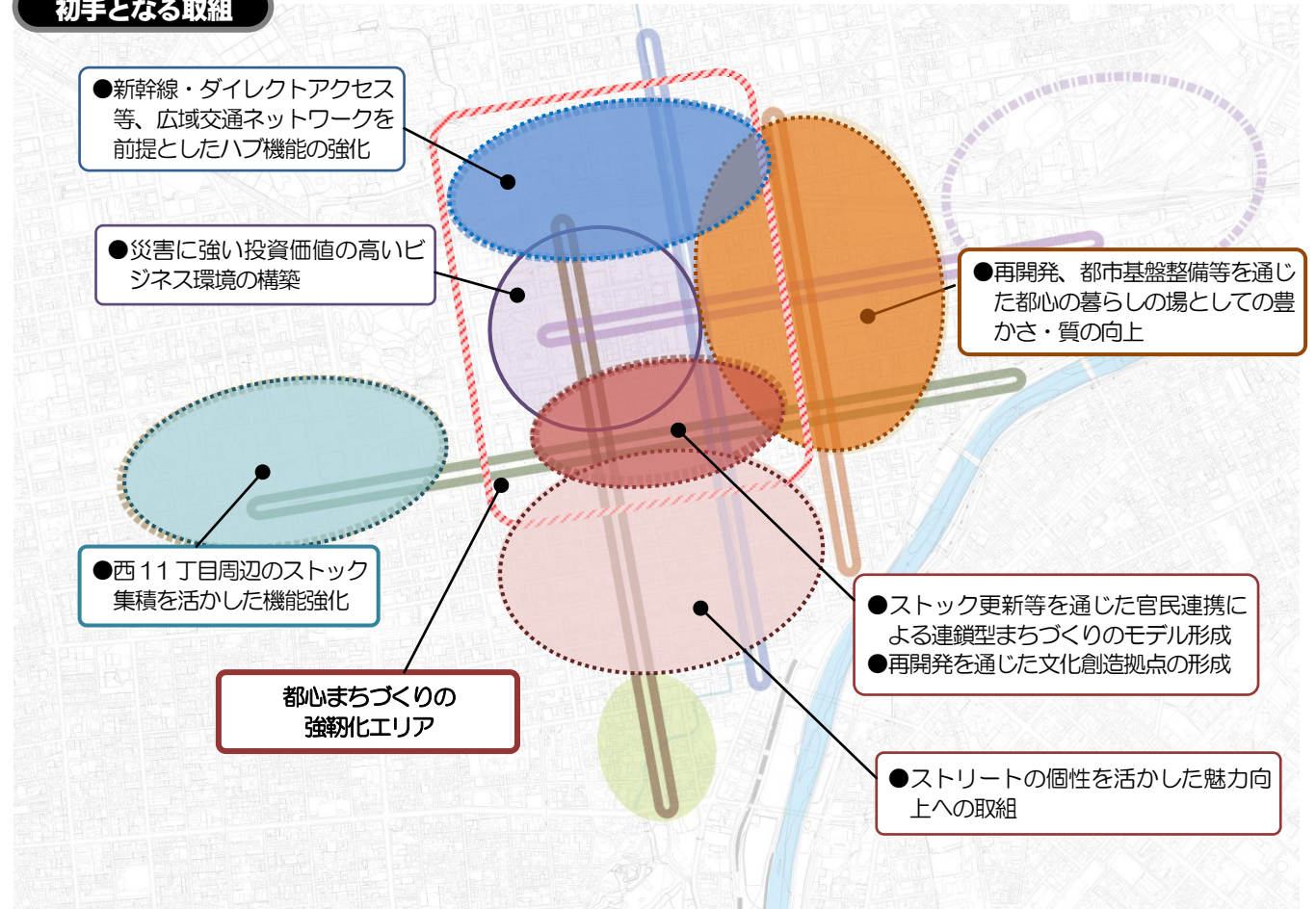
【2】 PLANNING (都心まちづくりの力点の視覚化)

(1) 都心まちづくりの方向性を端的に発信するメッセージ性の高い都心構造の立案

全体都心構造



初手となる取組

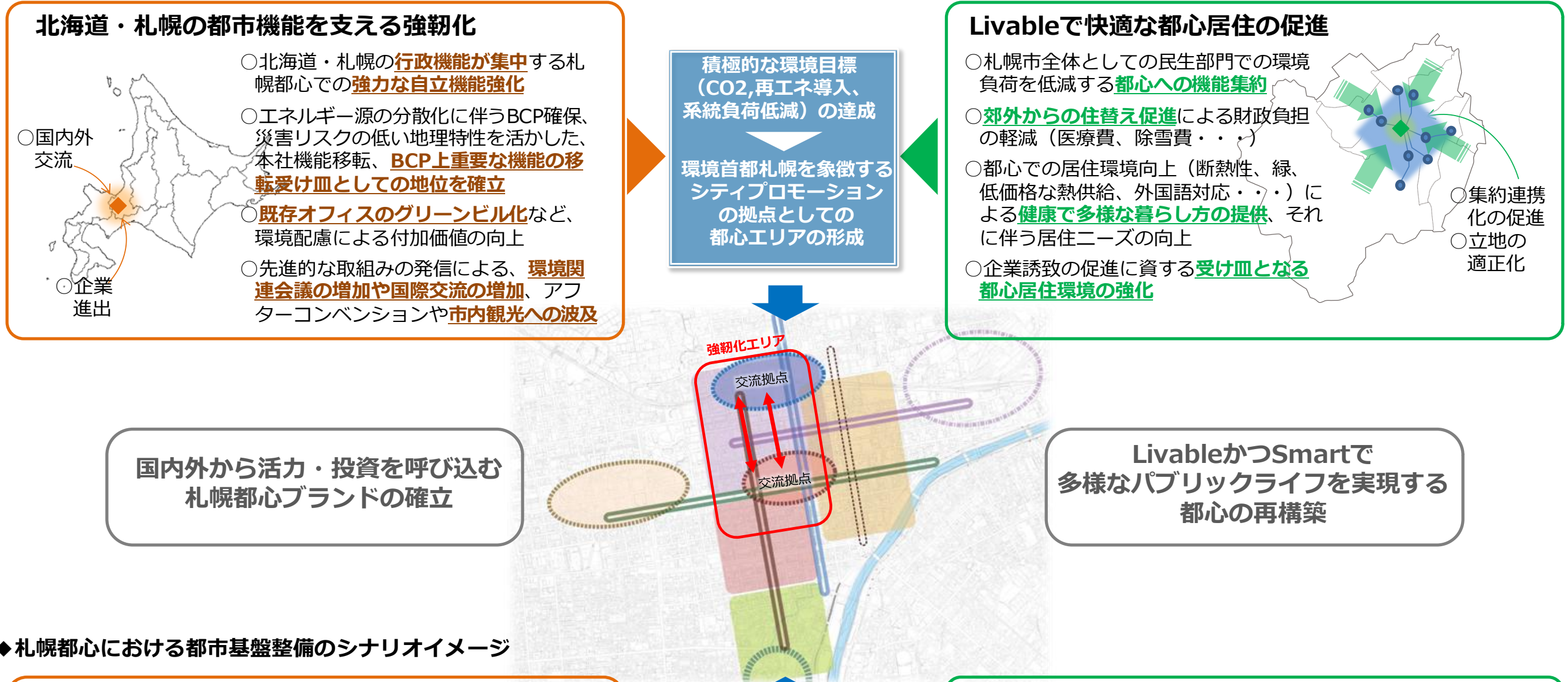


投資・人材を誘引する魅力の発揮	【都心ビジネス地区】 強靱な都心のビジネスエリア	●札幌の災害に強い地理特性と既存インフラの活用により、エネルギーセキュリティの高い都市基盤を形成するとともに、建築物の防災性能強化の促進による企業のBCPを実現し、安全なビジネス地区としての付加価値を向上し、国内外からの投資を誘引
	【札幌駅交流拠点】 ゲートウェイ	●国際的なビジネス・観光ハブとして、受入環境、交流促進環境を形成 ●北海道・札幌の魅力、情報を発信するアンテナ機能、にぎわい交流機能を誘導
	【西11丁目周辺】 MICE・コンベンション コアの形成	●MICE・コンベンション施設や文化施設、情報発信施設(放送局)等の集積を活かし、都心各エリアとの連携から新たな札幌ブランドを創造・展開
	【大通・創世交流拠点】 機能集積を活かした 受入環境の強化	●二つの交流拠点の複合化による都心における市民の豊かなパブリックライフを支える文化創造拠点への再構築 ●既存ストックの更新の連鎖・連携による新たな街並み形成、大通公園を軸としたパブリックスペースの連鎖等のモデル的展開
	【大通地区】 商業個性化の推進	●札幌を代表する商業ゾーンとして、ストリーートの個性が輝き、多くの市民や観光客を惹きつける豊かで快適な地区形成に向けた取組の展開
	【創成東地区】 都心居住エリアの質 の向上	●創成東地区の暮らしの場としてのコンパクトな環境を支える歩行空間、パブリックスペースを介した生活支援機能等のネットワークの強化 ●地区で新たなワークスタイルを実現出来るストックの活用

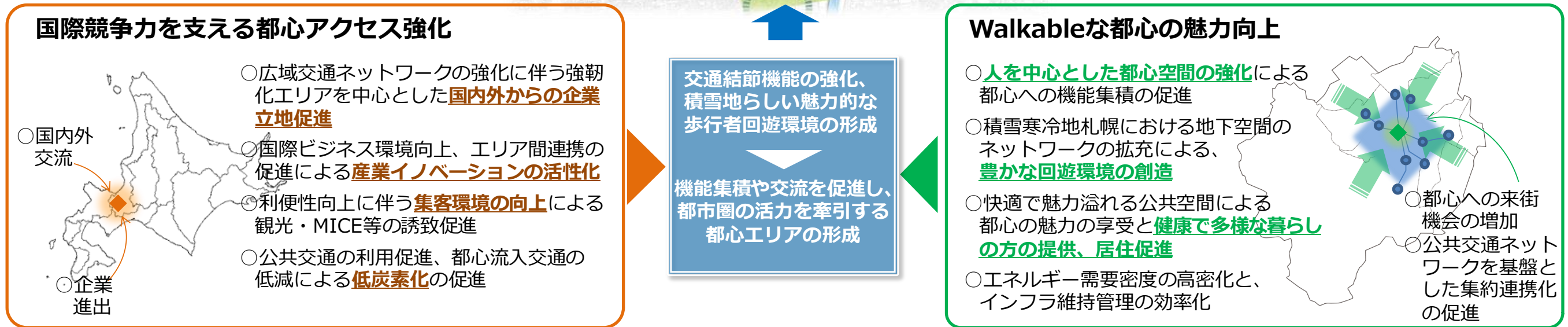
人を中心とした都心の再構築

【参考】都心まちづくりを支える基盤のレイヤー（低炭素・交通）のシナリオイメージ

◆札幌都心における低炭素型まちづくり施策検討のシナリオイメージ

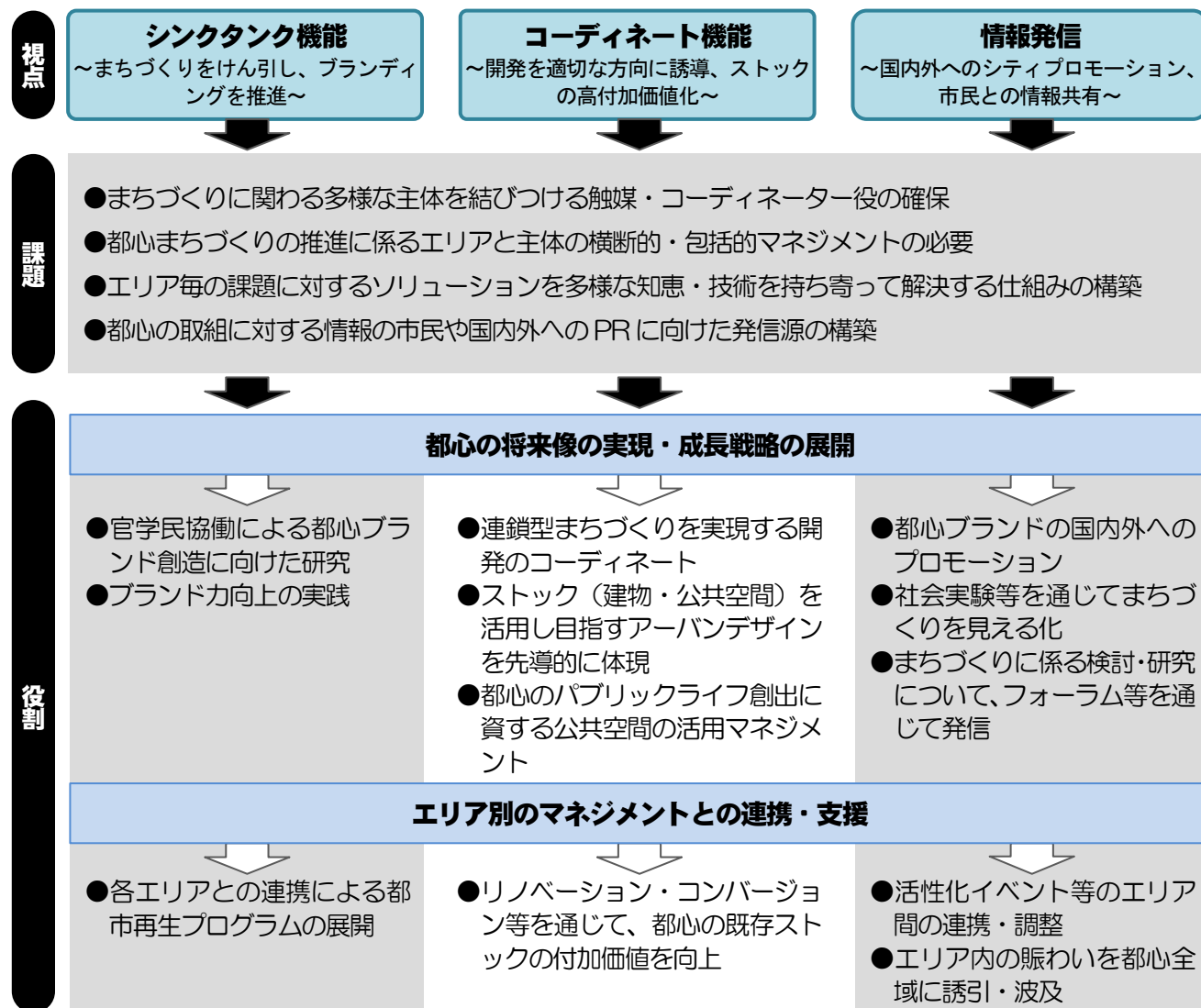


◆札幌都心における都市基盤整備のシナリオイメージ



【3】MANAGING（都心のエリアマネジメントの枠組みイメージ）

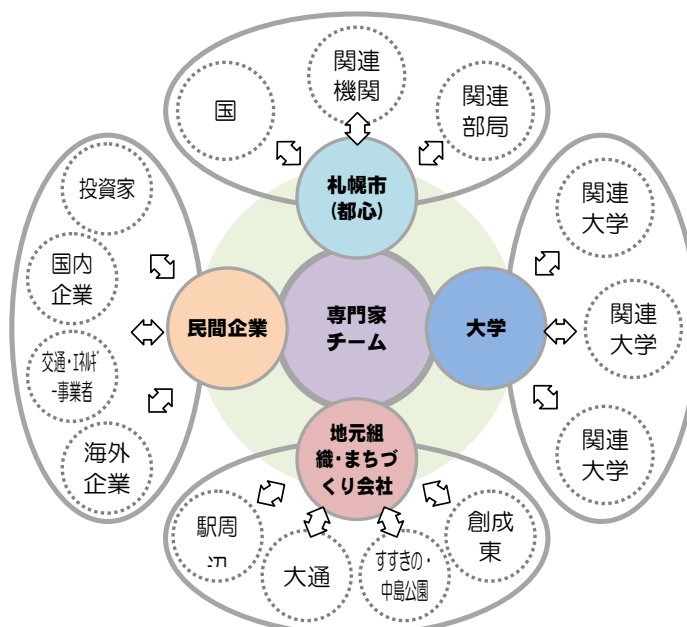
(1) 都心まちづくりの成長戦略を推進する上でのマネジメントの役割



(2) 都心エリアマネジメントの枠組み

① マネジメント主体の構成

- 都心まちづくりにおける「成長戦略の展開」と「エリア別マネジメントの連携」を視点として、先進事例等から、必要とされる主体の構成をモデルとして例示
- 現在の都心まちづくり計画策定協議会におけるメンバーも視野に入れつつ、連携を高め、都心にエリアマネジメントの可能性・方向性を継続的に検討



(3) 都心まちづくりの推進を担うエリアマネジメントの取組イメージ

